

## ～中国の小学校を訪問 日本との違いは？～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
和木田 真功

今回のテーマは、「中国の教育事情」です。以前、中国の小学校を訪問した際の体験談や、日本との違いなどをご紹介します。

### 1. 日本との教育制度の違い

日本と中国の教育制度の大きな違いとして「担任制度」があげられます。日本の小学校では担任の先生が主教科を教える「学級担任制」が一般的ですが、中国では異なり、各科目、それぞれ専任の先生が授業を行う「学科担任制」で授業を行っています。

また英語教育に関しても、日本と比べると熱心であると印象を受けました。中国では2001年より、小学3年生からの英語教育が始まりました。私が小学校を訪問した際、5年生の英語の授業に参加しましたが、私と一緒に訪問した英語圏の学生と、熱心に交流する様子を見て中国の小学生の英語力の高さに驚きました。

### 2. ピンポン体操

私が訪問した学校では、全校生徒が校庭に集合し、卓球の一連の動作を行う「ピンポン体操」を行っていました。最初は何も持たず、素振りの動作を行い、その後はラケットとボールを使い、ボールをラケット上で何度もバウンドさせていました。低学年の児童でもそつなくこなす様子は、さすが卓球王国といったところでしょうか。

### 3. 登下校時の交通事情

中国では登下校にスクールバスを使うか、あるいは両親もしくは祖父母が送り迎えをします。また子供の安全面の確保のため、スクールバスの停留所には必ず誰かが迎えに来ます。スクールバスを使わず、自家用車で迎えに来る親も多く、下校時の学校付近は、おびただしい数の人や車が集まります。(右図参照)狭い道では渋滞の原因にもなり、下校時になると、警備員が交通整理をしています。



日本では、小学生であっても自分の足で歩き、登下校するのが一般的ですが、これは中国人にとっては驚きのようで、「誘拐されないのか?」「事故にあわないのか?」などといった疑問を持つ人もいます。中国メディアで「日本の親はなぜこれほどまでに心臓が強いのか。」という疑問が投げかけられたこともあります。誘拐や事故が全くないわけではないですが、改めて日本の治安の良さを実感します。

家庭によっては、お金を惜しまず、子供を学校外の英語や様々な習い事に通わせている場合も多いと聞きます。日本でも塾や習い事等に通う子供も少なくありません。教育制度や環境に違いはあれ、子供の抱えるストレスは万国共通かもしれません。